



学 校 要 覧

令和5年5月1日 現在

青森県立青森聾学校

校 歌

作詞 横 濱 正 大
作曲 本 間 雅 夫

mp さ や か に ひろ ー き む つ の ー う み
か が や く や ま ー の っ ー う だ
き し ょ う と か ざ ー す と ど ま っ は

mf は く ち ょ う い こ ー う し ず ー け さ ー に お も
み ど り と も え ー て し ず た ー か な ー り お ー
ゆ き に あ お こ ー き す が ー あ ー り だ ん

い は ふ か ー く り り し さ も ち て こ
とろ ば あ か る り さ の も ち て こ
は が も ゆ ー くる た の よ ち に ほ

mp こ ま と ま に は ま げ ま ん わ れ ら
こ し ろろ ま た こ ゆ と ま ず く は ま げ な ん わ れ ら
し と き ま た ら め め れ ら

校 歌

作詞 横 濱 正 大
作曲 本 間 雅 夫

一、 さやかにひろき 陸奥の海
白鳥いこう 静けさに
想いは深く りりしさもちて
心まことに はげまん われら

二、 かがやく山の 八甲田
緑ともえて ゆたかなり
言葉あかるく やさしさもちて
心たゆまず 学ばん われら

三、 きしゅうとかざす とど松は
雪に青濃き 姿あり
だんろが燃ゆる たのしき夜に
星ときらめく 高きを われに

目 次

1 位 置	2
2 沿 革	2
3 校 地 ・ 校 舎	5
4 幼 児 児 童 生 徒 定 員 等	5
5 学 校 経 営 方 針	6
6 教 育 課 程 表	13
7 学 校 運 営 組 織	21
8 年 間 行 事 予 定 表	23
9 職 員 の 状 況	25
10 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況	28
11 卒 業 生 の 進 路 状 況	29
12 児 童 生 徒 会 組 織 及 び 部 活 動	30
13 寄 宿 舎 運 営	31
・ 校 舎 平 面 図	33
・ 寄 宿 舎 平 面 図	34
・ 校 舎 配 置 図	35
・ 校 章 ・ 校 歌 に つ い て	36
・ 案 内 図	

1 位 置

学 校 〒038- 0021 青森市大字安田字稲森125-1
TEL・FAX 017-766-1834
ホームページアドレス <http://www.aomoriro-shien.asn.ed.jp/>
メールアドレス ed-ao-ro@pref.aomori.lg.jp

2 沿 革

大正14年10月15日 盲人西蓮寺幸三郎氏が青森市大字長島に青森盲人教育所を開設。
昭和6年5月10日 盲啞学校とするため、北山一郎、藤林源右衛門、山田金次郎、柴山寅次郎、川口栄之進、張間多聞、中島健次郎、城戸利策の八氏があいはい「ろう」生を募集して、設立許可を文部省に申請。
昭和6年8月3日 文部省から許可を得て私立青森盲啞学校と改称。(在籍15名)
昭和6年12月8日 青森市大字沖館字篠田26番地(渡辺左助氏寄贈)に移転。
昭和7年1月10日 初代校長 張間多聞就任。
昭和8年11月1日 青森市大字浦町字橋本315番地へ校舎を建築移転。
昭和10年5月16日 第2代校長 北山一郎就任。
昭和12年4月1日 県立に移管され、青森県立青森盲啞学校と改称し、北山一郎が初代校長として就任。
昭和12年6月17日 ヘレンケラー女史来校。
昭和13年8月4日 校長北山一郎退職。以後、学校の経営は、県教育課長(石田直雄、柿崎守忠、穴吹正二、山下重輔、佐藤俊雄、木村実根三、藤森睿)が校長事務取扱いとして就任。
昭和20年7月20日 ろう啞中等部理髪科が理髪師養成施設として県から指定を受ける。
昭和20年7月28日 戦災により全校舎及び寄宿舎消失。
昭和22年5月1日 戦災復興建築の一部として寄宿舎(154坪)が完成する。
昭和23年8月20日 第2代校長 山口せ就任。
昭和24年4月1日 学制改革によって青森県立青森聾学校と校名を変更し、盲聾校名分離する。高等部設立。
昭和24年8月24日 中央校舎及び講堂(236.15坪)建築完成
昭和26年5月2日 青森市大字横山町103番地(327.83坪)を買収し、校地を拡張する。
昭和27年4月1日 第3代校長 佐治勝弥就任。
昭和27年6月13日 昭和27年度東北地区協議会研究会を主管開催する。
昭和30年8月31日 校舎増築(北側校舎100坪)建築完成
昭和30年10月15日 創立30周年記念式典を挙る。
昭和31年4月1日 第4代校長 斎藤真一就任。
昭和33年4月2日 理容科が厚生省より理容師養成施設として指定を受ける。
昭和34年4月1日 第5代校長 藤澤徹男就任。
昭和43年3月3日 校章、校旗制定。
昭和43年3月10日 青森県立盲学校青森校舎が移転する。本校単独校になる。
昭和43年4月1日 幼稚部設置。(4・5歳児)
昭和44年4月1日 第6代校長 奥角杏作就任。
昭和45年9月17日 昭和45年度東北聾教育研究大会を主管開催する。
昭和47年1月20日 校歌制定。(作詞 横濱正大 作曲 本間雅夫)
昭和47年3月21日 青森市大字安田字稲森へ校地(25,930㎡)を購入整地する。
昭和47年4月1日 第7代校長 山崎忠二就任。
昭和48年12月12日 青森市大字安田字稲森へ校舎新築開始。オイルショックのため棟ごとに建築する。
昭和49年4月1日 高等部の普通科を廃し、被服科を設置。
昭和49年6月14日 あかしや婦人学級開校式を挙る。
昭和49年11月27日 管理棟(1,099.65㎡)、寄宿舎(1,260.44㎡)が完成。
昭和50年4月1日 重複学級小・中各1学級設置。
昭和50年9月22日 高等部棟(762.30㎡)、体育館(690㎡)及びボイラー室(143.88㎡)が完成。

昭和51年 1 月12日	小・中学部棟（1,247.85㎡）が完成。全校舎完成する。
昭和51年 1 月20日	新校舎へ移転完了。
昭和51年 4 月 1 日	第8代校長 加藤信吉就任。
昭和51年 4 月 1 日	幼稚部3歳児学級認可新設。
昭和51年 5 月28日	玄関および寄宿舍前ロータリー植樹完成。
昭和51年10月10日	創立50周年記念式典ならびに校舎竣工記念式典を挙行。
昭和51年10月28日	全国聾学校卓球大会を主管する。（県営体育館）
昭和52年10月15日	第13回全国身体障害者スポーツ大会が青森市で開催され、開会式において本校児童生徒（46名）の鼓隊が大会旗を誘導する。
昭和53年12月14日	第15回全国聾学校卓球大会（茨城大会）において男子団体優勝（初）。女子団体準優勝。男子個人戦 西浜要優勝。
昭和54年 4 月 1 日	第9代校長 太田三雄就任。
昭和55年 2 月 3 日	第16回全国聾学校卓球大会（滋賀大会）において男子団体優勝（2回目）。男子個人戦 津川工優勝。
昭和56年 4 月 1 日	第10代校長 石田善三郎就任。
昭和57年11月26日	第19回全国聾学校卓球大会（東京大会）において男子団体優勝（3回目）。男子個人戦 千葉幹志優勝。
昭和58年 4 月 1 日	第11代校長 森山侃就任。
昭和60年10月26日	創立60周年記念式典を挙行。創立60周年を記念し、校訓碑を建立。
昭和61年 4 月 1 日	第12代校長 澤栄三郎就任。
昭和62年 6 月 5 日	第40回県高校総合体育大会大会スローガン最優秀作品賞を受賞する。（小鹿さよ子）
昭和62年11月29日	全国聾学校卓球大会（栃木県体育館）において男子団体優勝。男子個人戦 青山修優勝。
昭和63年11月19日	全国聾学校卓球大会（愛知県体育館）において男子団体優勝。男子個人戦 東田孝広優勝。
平成元年 4 月 1 日	第13代校長 澤田良夫就任。
平成 2 年11月30日	校門を改修。
平成 3 年11月16日	弘前、八戸聾学校高等部入学者の募集停止。本校の高等部に普通科を設置。
平成 4 年 4 月 1 日	第14代校長 古賀正就任。
平成 5 年 4 月 1 日	高等部理容科廃止。
平成 5 年 6 月 4 日	第46回県高校総合体育大会で青森聾学校卓球部が運動部活動奨励賞を受賞する。
平成 6 年 4 月 1 日	第15代校長 桜庭幸次就任。
平成 6 年 4 月 1 日	高等部被服科廃止。
平成 6 年 4 月 1 日	地域交流学習推進校の指定を受ける。
平成 6 年10月 1 日	第31回全国聾学校陸上競技大会を主管開催する。（県総合運動公園陸上競技場）
平成 6 年10月31日	校舎大規模改修第一期工事（寄宿舍管理棟、女子棟）
平成 7 年 5 月31日	文部省より7・8年の2年間、「学校過5日制研究推進校」に指定される。
平成 7 年 9 月22日	創立70周年を祝う会を行う。
平成 7 年11月 8 日	校舎大規模改修第二期工事。（校舎管理棟、寄宿舍男子棟、受水槽の改修）
平成 8 年 4 月 1 日	こだま婦人学級の三校合同名称は「こだま家庭教育学級」となる。
平成 8 年 7 月 2 日	第27回東北地区聾学校体育大会開催。（県総合運動公園陸上競技場、県民体育館）
平成 8 年 9 月 6 日	第11回東北地区聾学校PTA連合会研修大会（青森大会）開催。（浅虫南部屋）
平成 8 年11月30日	校舎大規模改修第三期工事。（幼・小・中学部棟、高等部棟）
平成 8 年11月30日	グラウンド全面大規模改修。
平成 9 年 2 月28日	プレイルーム設置。
平成 9 年 4 月 1 日	第16代校長 吉川宏就任。
平成 9 年12月25日	体育館大規模改修。
平成10年 4 月 1 日	県立学校公開講座「手話講座」を開講する。
平成11年 4 月 1 日	第17代校長 橘兼則就任。
平成13年 4 月 1 日	第18代校長 櫻田達夫就任。
平成13年11月30日	学校安全対策工事完成。（監視カメラ等）

平成15年4月1日	第19代校長 木村良教就任。
平成17年4月1日	第20代校長 工藤茂就任。
平成17年10月15日	創立80周年記念式典を挙る。
平成18年11月16日	平成18年度東北聾教育研究大会青森大会を主管開催する。
平成19年4月1日	第21代校長 吉崎昭夫就任。
平成19年6月5日	本校PTA会長澤井励子が特P連会長になる。本校事務局～22.6
平成20年6月27日	第33回東北地区聾学校体育大会を主管開催する。(県総合運動公園陸上競技場、青森大学)
平成21年1月31日	体育館耐震工事。
平成21年4月1日	S T等外部専門家活用事業研究協力校。
平成23年4月1日	第22代校長 風晴富貴就任。
平成23年4月23日	文部科学大臣より「子どもの読書活動優秀実践校」として表彰される。
平成23年11月22日	職員公舎売却。
平成25年2月7日	県教育委員会主催「一人一人のニーズに応えるリレーション事業」において聴覚障害教育における専門的指導のための研修会を開催する。
平成25年4月1日	教育委員会より「豊かな心をはぐくむパーソナルコミュニケーション事業」協力校の指定を受ける。
平成25年10月16日	県教育委員会教育長より「青森県学校給食優秀校」として表彰される。
平成25年11月20日	暖房改修工事(校舎側温水ボイラーに改修)終了。
平成25年11月29日	平成25年度第1回青森県立青森聾学校授業公開研究会を開催する。
平成25年12月24日	聴力測定室及びトイレ改修工事終了。
平成26年1月17日	フェンス改修工事(東・南・西側)終了及び学校門扉の設置。
平成26年2月7日	文部科学省委託、青森・秋田・岩手県教育委員会主催平成25年度特別支援学校ネットワーク構築事業「広域特別支援学校ネットワーク研修会」を開催する。
平成26年4月1日	第23代校長 中村健就任。
平成26年4月1日	文部科学省委託、インクルーシブ教育システム構築モデル地域推進校に指定される。
平成27年4月1日	「そだちとまなびの支援センター」及び下北地区での「サテライト教育相談」を開設。
平成27年4月1日	夢や志の実現を目指す「特別支援学校技能検定」開発事業委託。
平成27年10月15日	創立90周年記念式典を挙る。
平成28年4月1日	第24代校長 敦川優美子就任。
平成28年4月1日	発達障害等のある児童生徒の支援体制強化事業委託。
平成28年4月1日	学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業委託。
平成28年4月1日	青森県教育庁障害者就労促進センターあおもりが校内に設置。
平成29年4月1日	高等部普通科に重複学級設置。
平成29年12月6日	消防設備等改修工事。
平成30年1月26日	寄宿舎暖房設備改修工事。
平成30年4月1日	第25代校長 相馬純子就任。
平成30年4月1日	高等学校における特別支援教育体制強化事業委託。
平成30年10月13日	全国聾学校陸上大会(姫路大会)にて砲丸投げ1位優勝 高等部3年 堤 龍馬
平成30年11月2日	第55回全国聾学校卓球大会を主管開催する。
令和元年9月29日	全国聾学校陸上大会(栃木大会)にて砲丸投げ1位優勝 高等部2年 水谷 颯
令和2年4月1日	第26代校長 中谷えり子就任。
令和2年4月1日	地域における特別支援教育相談体制強化事業委託。
令和3年4月1日	特別支援学校におけるICTを活用した確かな学力向上事業委託。
令和3年11月6日	令和3年度東北聾学校研究大会青森大会を主管開催する。 (web会議システムによるオンライン開催)
令和4年3月28日	冷房設備設置工事完了
令和4年4月1日	第27代校長 大坂充就任
令和4年10月15日	全国聾学校陸上大会(山形大会)にてやり投げ1位優勝 高等部3年 古川 瑛梨奈

3 校 地 ・ 校 舎

校地面積、校舎敷地面積、校舎延面積

校 地	
総 面 積	29,878㎡
校 舎 敷 地	19,784㎡
運 動 場 敷 地	8,967㎡
そ の 他	1,127㎡

寄 宿 舎	
総 面 積	1,266㎡
舎 室 (15)	385㎡
舎 監 室	25㎡
生 活 訓 練 室	35㎡
食 堂	100㎡
調 理 室	59㎡
調 理 員 室	15㎡
廊 下 ・ そ の 他	647㎡

校 舎	
総 面 積	4,430㎡
教 室	898㎡
校 長 室	42㎡
職 員 室	84㎡
事 務 室	42㎡
講 堂 (体 育 館)	690㎡
実 験 実 習 室	402㎡
音 楽 室	81㎡
図 書 室	66㎡
保 健 室	42㎡
用 務 員 室	18㎡
廊 下 ・ そ の 他	2,065㎡

4 幼 児 児 童 生 徒 定 員 等

1 幼稚部・小学部・中学部の幼児児童生徒数

学 部	幼 児 児 童 生 徒 数
幼 稚 部	2 名
小 学 部	7 名
中 学 部	2 名

2 高等部の定員及び現在の生徒数

学 科	学 年	定 員	生 徒 数
普 通 科	1 年	8 名	1 名
	2 年	8 名	2 名
	3 年	8 名	1 名
	重 複 学 級	3 名	1 名

3 寄宿舎の定員及び現在の幼児児童生徒数

学 部	定 員	幼 児 児 童 生 徒 数
幼 稚 部	70 名	1 名
小 学 部		3 名
中 学 部		0 名
高 等 部		5 名

5 学 校 経 営 方 針

1 学 校 理 念

本校は聴覚障害を有する幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するため、幼児児童生徒一人一人の心を育て、教育的ニーズに応じた教育を施すとともに、特別支援教育のセンター的機能を発揮し地域に貢献することを目的とする。

※心を育てる：「自分で考える、善悪や命を大切にする、感情を理解しコントロールする、自己肯定感・自尊感情など自分を大切にする、多様性を尊重し自分だけでなく他人も大切にする」を育てる。

2 校訓及び学校教育目標

○校 訓

誠：すなおな心まじめな気持ち

和：みんな仲良く助け合い

朗：明るく楽しい学校生活

○教 育 目 標

- (1) 人格を形成し、言語力を育成する。
- (2) 個性伸長の教育を実現する。
- (3) 基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- (4) 自主的・創造的生活態度を形成する。
- (5) 社会性を育成し、情操の涵養を図る。

○学校教育目標を達成した生徒の姿

- (1) 自分の考えを表すことができる、相手の話を聴き（書かれたものを読み）理解することができる生徒
- (2) 自分に自信を持ち、夢や志の実現に向けて努力することができる生徒
- (3) 生涯学んでいくために必要な基礎的・基本的な学習内容を身に付けた生徒
- (4) 主体的に考え協力して活動できる生徒
- (5) 多様性を尊重し「よりよく生きる」ことを目指して努力する生徒

3 基 本 方 針

令和5年度の青森県教育委員会の学校教育指導の方針と重点及び令和4年度の学校課題に則り、学校教育目標の達成のため、身に付けさせたい資質能力を明確にして一人一人の幼児児童生徒の実態に応じた教育活動を、全教職員の協力・協働により展開する。そのため、教職員はそれぞれ指導力及び専門性の向上に努めるとともに、目標と情報を共有し自律的に業務を進める。校長は、職員一人一人の職能成長と適切な職能分化を図り、心理的安全性の高い専門職組織としての学校運営に努める。

4 目 指 す 学 校 像

- (1) 子どもとその保護者に夢と希望と自信を持たせ、子どもが意欲と主体性をもって学ぶ学校
- (2) 子ども達が考え、学ぶことの喜びを知る授業が行われる学校
- (3) 職員が子どもたちのことを中心に考え、主体的に動き、充実感をもって勤務することのできる学校

◎ 幼 稚 部

1 教 育 目 標

- (1) 望ましい人間関係を育み、自立心及び協同性や道徳性の芽生えを培う。
- (2) 身近な事象への関心を育み、豊かな感性や表現力、思考力の芽生えを養う。
- (3) 聴覚の活用を図り、言葉への興味や関心を育てながら、コミュニケーション能力を養う。

2 指導の重点及び教育課程編成の方針

(1) 指 導 の 重 点

ア 元気に友だちと遊ぶ子

- ・やりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
- ・のびのびと遊ぶ中で、自分で考え工夫し、達成感を味わい、自信をもって行動する自立心を養う。
- ・友達と思いや考えを共有し、共通の目的に向けて協力し、協同性を養う。
- ・自分の行動を振り返り、気持ちを調整して友達と折り合いを付けたり、決まりをつくり、守ったりする道徳性・規範意識の芽生えを養う。

イ よく考える子

- ・遊びや生活に必要な情報を取り入れ、判断する力を養う。
- ・物の性質や仕組みを感じ取って多様に関わったり、異なる考えに気付き、よりよい考えを生み出したりする思考力の芽生えを養う。
- ・自然への愛情や畏敬の念をもち、身近な動植物を命あるものとして大切に関わる態度を養う。
- ・数量や図形、標識や文字などに興味や関心をもち、役割に気付いて活用する意欲を育てる。
- ・様々な素材の特徴や表現の仕方に気付き、表現する意欲を育てる。

ウ よくきき、自分から話そうとする子

- ・補聴器等の装用に慣れ、効果的な活用を図り、楽しく音や言葉を聞く態度を養う。
- ・様々な人と触れ合い、事物や事象に関心を向け、言葉等で表現したいという意欲を高める。
- ・身近な体験を素材にした話し合いの機会を増やし、生活に必要な言葉の概念の形成・定着・拡充を図る。
- ・絵本や物語に親しみ、豊かな言葉や表現を身に付け、相手の話を聞き、言葉による伝え合いを楽しむ意欲を育てる。

(2) 編 成 の 方 針

ア 教育内容は、幼稚部教育要領により、具体的な活動の中で総合的に指導する。

イ 幼児期の教育における見方・考え方に即して、遊びや生活の直接的な体験を重視する。

ウ 一人一人の子どもの発達状況等を適切に把握し、指導内容や方法を工夫する。

エ 幼稚部における生活が幼児にとって安全なものとなるよう、幼児の主体的な活動を大切にしつつ、校内外の環境の配慮や指導の工夫を行う。

オ 1クラスの子どもの数が少なく集団における経験不足しがちなので、合同での活動や近隣こども園と活動を共にする機会を設定する

カ 自立活動の指導は、幼稚部における生活の全体を通して弾力的に運用できるよう配慮する。

キ 保護者への援助を適切に行い、安定した親子関係を育むとともに、家庭や関係機関との連携を密にすることによって教育効果を高める。

ク 小学部又は小学校教育との円滑な接続を図る。

◎ 小 学 部

1 教 育 目 標

- (1) 望ましい人間関係の形成を図り、基礎的な言語力を育てる。
- (2) 一人一人の興味・関心を大事にし、自分の特徴に気付かせ、良いところを伸ばすようにする。
- (3) 個に応じた指導を通し、基礎学力の定着を図る。
- (4) 基本的な生活習慣を身に付け、進んで取り組む態度を育てる。
- (5) 集団での活動や交流及び共同学習を通して、社会性の発達を促し、心豊かな子を育てる。

2 指導の重点及び教育課程編成の方針

(1) 指 導 の 重 点

ア 進んで関わり、正しく伝えることができる子

- ・一人一人の児童を大事にし、互いに認め合える力を育む。
- ・生活経験を広げ、社会に適応するために必要な基礎的な力を養う。
- ・得意なコミュニケーション手段を活用できるようにするとともに、多様なコミュニケーション手段を経験する中で、使うことができるようにする。
- ・聞く姿勢、話す態度を養うとともに、語彙の拡充と言語概念の形成を図る。

イ 自分を見つめる子

- ・集団活動を通して、自分の特徴や良いところに気付くことができるようにする。
- ・友達の良さを認め、共に高め合おうとする意欲を育む。
- ・自分の良いところを積極的に伸ばし、将来的に自己実現できるような態度を育てる。
- ・いろいろな知識に触れたり、体験したりする場面を設定し、働くことへの興味や関心を広げる。

ウ じっくり勉強する子

- ・個の実態に応じ、学習形態や指導方法及び指導体制の工夫・改善を図る。
- ・学習内容の精選や児童の興味や関心を生かした教材・教具の工夫を通して、基礎学力の定着を図る。
- ・家庭と連携を図り、自学自習の習慣を身に付けることができるようにする。
- ・体験的な学習等を通して、学ぶ意義を認識できるようにする。

エ 進んで取り組む子

- ・丈夫で健康な体をつくることの大切さを知り、よりよく生活しようとする態度を育てる。
- ・係や当番の仕事を進んでやり、最後までやりとげる責任感を育てる。
- ・毎日のマラソンやなわとび運動等を通して、楽しく体を動かす習慣を身に付けることができるようにするとともに、体力の向上を図る。
- ・家庭と連携し、明るく元気に過ごすための生活習慣を身に付けることができるようにする。

オ 心豊かな子

- ・集団活動を通して、友達への思いやりの心を育てる。
- ・運動や遊びの中で、簡単なきまりをみんなで守ろうとする態度を育てる。
- ・体験的な学習を通して、豊かな感性を育てる。
- ・交流及び共同学習を通して、豊かな人間性を育む。

(2) 編 成 の 方 針

ア 児童の障害の程度や発達の段階や特性を踏まえ、調和のとれた人間の育成を目指し、6年間を見通した一貫性のある教育課程を編成する。

イ 一人一人の学習上又は生活上のニーズを的確に捉え、指導内容及びその授業時数を編成し、個に応じた指導を推進する。

ウ 自立活動の指導は、自立活動の時間の指導と教育活動全体を通して行うようにし、各教科等と密接な関連をもたせながら、児童一人一人の障害の状態や発達の段階や特性を十分に考慮して行うようにする。

- エ 自己の生き方を考えていくことを目指し、総合的な学習の時間において、探究的な見方・考え方を働かせて、主体的・協働的に取り組める問題解決的な活動を設けるようにする。
- オ 道徳教育は、特別の教科道徳の時間を要として教育活動全体を通して行うようにし、問題解決的な学習や体験的な学習を通して、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるようにする。
- カ 将来自立し社会参加できる力の基礎となる力や態度、習慣を身に付けることができるように、教育活動全体を通じてキャリア教育を行い、一貫性・系統性をもった指導が行えるようにする。
- キ 社会性を養い、好ましい人間関係を育て、集団の中で共に学び共に育つことができるように、異学年合同での学習の機会や近隣の小学校との交流及び共同学習の機会を積極的に設けるようにする。
- ク プログラミング教育は、各教科等の内容を指導する中で、学びをより確実なものにするために計画的に実施する。プログラミング的思考を育みながら、プログラムの働きや良さに気づき、コンピュータ等を活用して身近な問題を解決しようとする態度を育むようにする。

◎ 中 学 部

1 教 育 目 標

- (1) 積極的に人と関わる態度を育て、言語力及びコミュニケーション能力の向上を図り、伝え合おうとする気持ちを育てる。
- (2) 個に応じた教育の充実に努め、自己を生かそうとする態度を育てる。
- (3) 基礎的・基本的な学習内容の定着に努め、自ら学び、考えようとする態度を育てる。
- (4) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康と体力の増進を図る。
- (5) 集団での活動や交流及び共同学習を通して、相手の立場を思いやり協力し合う豊かな心を育てる。

2 指導の重点及び教育課程編成の方針

(1) 指 導 の 重 点

ア 積極的に人と関わり、伝え合おうとする生徒

- ・ 学校内外で様々な人と接する機会を設け、積極的に人と関わる態度を育てる。
- ・ 自己の特性や障害を理解し、充実した生活を送るために自ら工夫する態度を育てる。
- ・ 相手や場に応じた適切なコミュニケーション手段を選択・活用できるようにする。
- ・ 言語環境を整え、学習の基礎となる言語概念の形成を図る。

イ 自分や他人を大切にする生徒

- ・ 集団の中で様々な役割を経験することを通して、自己の長所や特性に気付くことができるようにする。
- ・ 生徒同士が互いの個性を尊重し合い、活動の目標を達成するために協力し合って活動できるようにする。
- ・ 生徒の個性や特性をふまえ、長所を伸ばすとともに、自己肯定感及び有用感を実感できる活動を設定し、社会性を育むことができるようにする。
- ・ 職業に関する体験的な活動を通して、自分に合った適切な進路を選択できる基盤となる力を養う。

ウ 進んで学習に取り組み、考えようとする生徒

- ・ 生徒の実態に応じた指導方法や指導体制を工夫し、個に応じた指導の充実に努める。
- ・ 体験的活動や問題解決的な学習活動を重視し、生徒の興味・関心や考える力を高める。
- ・ 家庭や寄宿舎との連携を図り、学習習慣が確立できるようにする。
- ・ 生徒が見通しをもって計画的に学習に取り組めるよう配慮し、主体的な学習態度を育てる。

エ 明るくたくましい生徒

- ・ 健康や安全に配慮した日常生活を送ることができるようにする。
- ・ 日課や自分の役割に、主体的に取り組む態度を育てる。
- ・ 体力の向上を目指し、積極的に運動に取り組もうとする態度を育てる。

- ・自己を見つめ、他者との対話を大切にすることで、自ら問題解決する資質を養う。
 - ・家庭や寄宿舎と連携し、健康で活力ある生活を送ろうと工夫する意欲を高める。
- オ 思いやりの心をもち協力し合う生徒
- ・集団活動を通して、自主的に活動する力や責任感を養う。
 - ・話し合いのルールや活動の期限を守ることなど、社会生活に必要な基礎的な態度を育てる。
 - ・生徒の自治的・自発的な活動を重視しながら、他者の立場や心情を理解し、尊重する心を育てる。
 - ・相手や場に応じた言葉遣いやマナーを守って行動する態度を養う。

(2) 編 成 の 方 針

- ア 生徒の特性や課題を十分考慮し、生徒が主体的に活動できるよう配慮して編成する。
- イ 障害の程度や状態及び少人数化等を考慮して、授業形態やグループの編成を工夫し、生徒の実態に応じた適切な学習活動ができるようにする。
- ウ 自立活動は、障害の状況や特性を考慮し、自立活動の時間の指導と各教科や領域の指導とを密接に関連をもたせながら教育活動全体を通して行う。
- エ 総合的な学習の時間は、生徒の実態や特性に応じて、調べ学習や体験的な活動を通して課題を主体的に解決する態度を育む。
- オ 道德教育は、道德科を中心に教育活動全般を通じて指導し、道德的価値に基づいた道德的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努める。
- カ プログラミング教育については、「プログラミング的思考」を育むことやプログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることに気付けるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むことをねらいとして、関連教科等を中心に教育活動全体を通して行う。
- キ 生きる力としての自学自習の態度や、将来自立し社会参加するために必要な力を家庭や関係機関と連携し、計画的且つ系統的に育成する。
- ク 生徒の経験を広げ、社会性を養うため、交流及び共同学習や社会見学の機会を設ける。

◎ 高 等 部

1 教 育 目 標

- (1) 豊かな人間性を育て、社会生活に必要なコミュニケーション能力が身に付くようにする。
- (2) 生徒の特性に応じた個性を生かす教育の充実を図る。
- (3) 基礎的・基本的な知識及び技能の発展、拡充を図る。
- (4) 自己理解を深め、社会生活に向け必要な生活習慣や態度を育てる。
- (5) 勤労や奉仕に関わる体験的な活動や交流及び共同学習を通して、豊かな人間性を培う。

2 指導の重点及び教育課程編成の方針

(1) 指 導 の 重 点

- ア 心豊かに、表現力の向上を目指す生徒
- ・未来を切りひらく豊かな心と、社会に対して逞しく生き抜く力を育てる。
 - ・情報化社会に対応できるよう社会的な事柄にも広く目を向け、自ら積極的に情報を収集・選択し、活用していこうとする態度を養う。
 - ・多様なコミュニケーション手段を活用させて、それぞれの手段特有の機能を意識して選択・活用できる能力を養い、正確な意思の相互伝達ができるようにする。
 - ・語彙の拡充や言語理解を図り、批評や論述、討論などを含む豊かな言語活動が展開されるようにする。
- イ 自己実現を目指す生徒
- ・生徒の特性や目指す進路に応じて教育内容の精選や拡充に努める。

- ・生徒の個性を生かしながら、学校全体のリーダーとして自分の役割に積極的に取り組めるようにする。
- ・自ら考え、行動できるよう、自己選択・自己決定ができる場面を多く設定する。
- ・自己の特性や社会情勢を見据え、具体的な進路を選択できるようにする。
- ウ 自ら学び続けようと努力する生徒
 - ・自立と社会参加に向けて、社会経験が積み重なるよう学習活動を展開する。
 - ・各教科・科目の指導にあたっては、学習内容の習熟の程度に応じた弾力的なグループ編成等、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。
 - ・家庭や寄宿舎の学習においては、自ら計画を立て、実践できるよう学習意欲の向上に努める。
 - ・学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、主体的に学習できるようにする。
- エ 協調性をもち、心身の健康に努める生徒
 - ・集団の中で好ましい人間関係を築くことができる心を育て、健全な人生観を育成する。
 - ・集団の一員として行事等に主体的に参加し、自ら工夫して創造しようとする態度を養う。
 - ・運動を通して、体位・体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実践しようとする意欲を育てる。
 - ・将来の社会生活において、健康・安全を確保し、活力のある生活を送るための基礎を養う。
- オ 自らの責任を果たし、他を思いやる生徒
 - ・産業現場等における実習を通して、自己の能力や適性、社会との関わりに対する理解を深める。
 - ・一人一人のキャリア発達に応じ、教育活動全体を通して、職場や社会で必要な知識や技能を自ら獲得しようとする意欲を養う。
 - ・ボランティア活動により、協力や思いやる気持ちなど、豊かな心を育む。
 - ・交流及び共同学習を通して、お互いを正しく理解し、助け合い、支え合っていくことの大切さを知り、社会性を養う。

(2) 編 成 の 方 針

ア 教育目標を達成するため、次のような学級及び類型を設ける。また、キャリア教育の充実を目指し、積極的な社会参加と自立、さらに就労への意識を高めることをねらいとして、準ずる学級に学校設定科目「産業社会」及び「産業社会と人間」を設定する。

【準ずる学級】

I・II類型及びIII類型を設定する。I・II類型は1年次において共通履修とし、2年次より生徒の希望や実態等を考慮して、適切な教育ができるように類型の選択を行う。III類型は、3年間を通して同じ類型で学習を行う。

・ I 類 型

文系と理系に分かれて教科を履修し、進学を目指した知識や技能を身に付ける学習をする。

・ II 類 型

一般就労等を目指し、基礎学力の充実に努めるとともに社会生活や就労に関する学習をする。

・ III 類 型

卒業後の自立を目指し、生活に結びついた基礎的・基本的な学習や就労態度を身に付ける学習をする。

【重複学級】

I・II類型を設定し、心身の健康の充実を図り社会性を伸ばしながら、卒業後のよりよい生活を目指して各教科及び領域で学習をする。

イ 生徒の実態に応じたグループを編制し、適切な学習ができるようにする。

ウ 自立活動の指導は、障害の状況や特性を考慮し、自立活動の時間の指導と各教科等と密接に関連を持たせながら教育活動全体を通して行う。

- エ 総合的な探究の時間は、生徒の実態や特性に応じて、興味・関心に基づく事柄や進路等の調べ学習や体験活動を中心に展開する。
- オ 教育活動全体を通して道徳教育を充実させ、人間としての在り方や生き方を探求し、社会の一員として生きる力を育む。
- カ プログラミング教育については「プログラミング的思考」を育むことや情報の特性を理解した上で状況に応じてコンピュータを適切に使える力、情報伝達のための表現力や問題解決能力を養うとともに、情報モラルを理解した上で適正な活動を行う態度を育むことをねらいとして、関連教科等を中心に教育活動全体を通して行う。
- キ キャリア教育の充実に向けて、進路指導はもとより様々な教育活動を意図的・体系的につなぎ合わせながら、全体を通して自己実現を目指した支援を行う。
- ク 生徒の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育てるため、体験的な活動や交流及び共同学習の機会を積極的に設ける。

6 教育課程表

(1) 幼稚園部（幼児に履修させる領域及び教育時間数）

領 域	年 齢	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
健 康 人 間 関 係 環 境 言 葉 表 現 自 立 活 動		7 8 0	7 8 0	7 8 0
履 修 人 員		1 名	0 名	1 名

(2) 小学部（小学校に準じた各教科等及び自立活動で編成する教育課程）

教科等	入学年度	平成30年度～令和5年度					
	学 年	1	2	3	4	5	6
国 語		306	315	245	245	175	175
社 会				70	90	100	105
算 数		136	175	175	175	175	175
理 科				90	105	105	105
生 活		102	105				
音 楽		68	70	60	60	50	50
図 画 工 作		68	70	60	60	50	50
家 庭						60	55
体 育		102	105	105	105	90	90
外 国 語						70	70
外 国 語 活 動				35	35		
自 立 活 動		68	70	70	70	70	70
総合的な学習の時間				70	70	70	70
小 計		850	910	980	1,015	1,015	1,015
特別の教科 道徳		34	35	35	35	35	35
学 級 活 動		34	35	35	35	35	35
合 計		918	980	1,050	1,085	1,085	1,085
履 修 人 員		2 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人
備 考		・ 小学校の各教科等に準じた目標及び内容を取り扱う。 ・ 児童会活動を年間20時間程度設定する。 ・ クラブ活動を年間10時間程度設定する。 ・ 1 単位時間は45分とする。 ・ 10分を単位時間とした自立活動及び体育を毎日行う。 ・ 給食指導は、授業時数に含まない。					

(3) 小 学 部 (当該学年の前各学年の目標及び内容の一部または全部に替えた各教科及び自立活動で編成する教育課程)

教科等	入学年度 学 年	平成30年度～令和5年度					
		1	2	3	4	5	6
国 語		306	315	245	245	175	175
社 会				70	90	100	105
算 数		136	175	175	175	175	175
理 科				90	105	105	105
生 活		102	105				
音 楽		68	70	60	60	50	50
図 画 工 作		68	70	60	60	50	50
家 庭						60	55
体 育		102	105	105	105	90	90
外 国 語						70	70
外 国 語 活 動				35	35		
自 立 活 動		68	70	70	70	70	70
総合的な学習の時間				70	70	70	70
小 計		850	910	980	1,015	1,015	1,015
特別の教科 道徳		34	35	35	35	35	35
学 級 活 動		34	35	35	35	35	35
合 計		918	980	1,050	1,085	1,085	1,085
備 考		0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人
		・ 小学校の各教科等に準じた目標及び内容を取り扱うが、一部の教科については前各学年の目標及び内容の一部又は全部を取り扱う。 ・ 児童会活動を年間20時間程度設定する。 ・ クラブ活動を年間10時間程度設定する。 ・ 1 単位時間は45分である。 ・ 10分を単位時間とした自立活動及び体育を毎日行う。 ・ 給食指導は、授業時数に含まない。					

(4) 小 学 部（各教科の一部又は全部を知的障害の各教科に替えて編成する教育課程）

〈Ⅰ 類 型〉

教科等	入学年度 学 年	平成30年度～令和 5 年度					
		1	2	3	4	5	6
日常生活の指導		170	175	175	175	175	175
生活単元学習		136	140	140	140	140	140
生 活		*	*	*	*	*	*
国 語		136*	140*	140*	175*	175*	175*
算 数		136*	140*	140*	140*	175*	175*
音 楽		34*	70*	60*	60*	50*	50*
図 画 工 作		34*	35*	60*	60*	50*	50*
体 育		102*	105*	105*	105*	90*	90*
外 国 語							
外国語活動				20*	20*	20*	20*
自立活動		102*	105*	105*	105*	105*	105*
総合的な学習の時間				35	35	35	35
小 計		850	910	980	1,015	1,015	1,015
特別の教科 道徳		34*	35*	35*	35*	35*	35*
学 級 活 動		34	35	35	35	35	35
合 計		918	980	1,050	1,085	1,085	1,085
備 考		0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人
		・各教科を知的障害の各教科に替え、*を付した各教科等の一部又は全部を合わせ、「日常生活の指導」及び「生活単元学習」で指導する。 ・外国語は設けない。 ・1 単位時間は45分である。 ・10分を単位時間とした自立活動及び体育を毎日行う。 ・給食指導は、授業時数に含まない。					

〈Ⅱ 類 型〉

教科等	入学年度 学 年	平成30年度～令和 5 年度					
		1	2	3	4	5	6
日常生活の指導		340	350	350	350	350	350
生活単元学習		136	140	210	280	280	280
生 活		170	210	210	175	175	175
国 語		#*	#*	#*	#*	#*	#*
算 数		#*	#*	#*	#*	#*	#*
音 楽		#*	#*	#*	#*	#*	#*
図 画 工 作		#*	#*	#*	#*	#*	#*
体 育		#*	#*	#*	#*	#*	#*
自立活動		238	245	245	245	245	245
小 計		884	945	1,015	1,050	1,050	1,050
特別の教科 道徳		#*	#*	#*	#*	#*	#*
学 級 活 動		34	35	35	35	35	35
合 計		918	980	1,050	1,085	1,085	1,085
備 考		0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		・各教科を知的障害の各教科に替え、#を付した各教科等の一部又は全部及び道徳科の一部を自立活動に替えて指導する。 ・*を付した各教科等の一部又は全部を合わせ、「日常生活の指導」及び「生活単元学習」「遊びの指導」で指導する。 ・外国語活動及び総合的な学習の時間は設けない。 ・1 単位時間は45分である。 ・10分を単位時間とした自立活動を毎日行う。 ・給食指導は、日常生活の指導（175時間）として取り扱う。					

(5) 中 学 部（中学校に準じた各教科等及び自立活動で編成する教育課程）

入学年度 学 年 教科等		令和3年度～令和5年度		
		1	2	3
国	語	140	140	105
社	会	105	105	140
数	学	140	105	140
理	科	105	140	140
音	楽	45	35	35
美	術	45	35	35
保 健 体 育		105	105	105
技 術 ・ 家 庭		70	70	35
外 国 語		140	140	140
自 立 活 動		70	70	70
総合的な学習の時間		50	70	70
小 計		1,015	1,015	1,015
特 別 の 教 科 道 徳		35	35	35
学 級 活 動		35	35	35
合 計		1,085	1,085	1,085
履 修 人 員		0 人	0 人	1 人
備 考		・ 中学校の各教科等に準じた目標及び内容を取り扱う。 ・ 1 単位時間は50分とする。 ・ 自立活動は1 単位時間のほか、コミュニケーション能力の向上のために、新しい語彙の獲得等をねらいとして10分を単位時間とした自立活動を毎日行う。		

(6) 中 学 部（当該学年の前各学年の目標及び内容の一部又は全部に替えた各教科及び自立活動で編成する教育課程）

入学年度 学 年 教科等		令和3年度～令和5年度		
		1	2	3
国	語	140	140	105
社	会	105	105	140
数	学	140	105	140
理	科	105	140	140
音	楽	45	35	35
美	術	45	35	35
保 健 体 育		105	105	105
技 術 ・ 家 庭		70	70	35
外 国 語		140	140	140
自 立 活 動		70	70	70
総合的な学習の時間		50	70	70
小 計		1,015	1,015	1,015
特 別 の 教 科 道 徳		35	35	35
学 級 活 動		35	35	35
合 計		1,085	1,085	1,085
履 修 人 員		0 人	0 人	1 人
備 考		・ 中学校の各教科等に準じた目標及び内容を取り扱うが、一部の教科については前各学年及び小学校の相当する各教科の目標及び内容の一部または全部を取り扱う。 ・ 1 単位時間は50分とする。 ・ 自立活動は1 単位時間のほか、コミュニケーション能力の向上のために、新しい語彙の獲得等をねらいとして10分を単位時間とした自立活動を毎日行う。 ・ 給食時間は、授業時数に含まない。		

(7) 中 学 部（各教科の一部又は全部を知的障害の各教科に替えて編成する教育課程）

教科等	入学年度	令和3年度～令和5年度					
	類 型	Ⅰ 類 型			Ⅱ 類 型		
	学 年	1	2	3	1	2	3
日常生活の指導					350	350	350
生活単元学習		140	140	140	210	210	210
作業学習		140	140	140	140	140	140
国語		105*	105*	105*	35*	35*	35*
社会		70*	70*	70*	#*	#*	#*
数学		105*	105*	105*	35*	35*	35*
理科		70*	70*	70*	#*	#*	#*
音楽		35*	35*	35*	#*	#*	#*
美術		35*	35*	35*	#*	#*	#*
保健体育		105*	105*	150*	#*	#*	#*
職業・家庭		*	*	*	#*	#*	#*
外国語		70*	70*	70*			
自立活動		105*	105*	105*	245*	245*	245*
総合的な学習の時間		35	35	35	35*	35*	35*
小 計		1,015	1,015	1,015	1,050	1,050	1,050
特別の教科 道徳		35*	35*	35*	#*	#*	#*
学級活動		35	35	35	35	35	35
合 計		1,085	1,085	1,085	1,085	1,085	1,085
備 考		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		・各教科を知的障害の各教科に替え、*を付した各教科等の一部又は全部を合わせ、「日常生活の指導」「生活単元学習」「作業学習」で指導する。 ・Ⅱ類型において、#を付した各教科等の一部又は全部を教科及び道徳科の一部を、自立活動に替えて指導する。 ・1単位時間は50分とする。 ・自立活動は1単位時間のほか、コミュニケーション能力の向上のために、新しい語彙の獲得等をねらいとして、10分を単位時間とした自立活動を毎日行う。 ・Ⅰ類型は給食指導を授業時数に含まない。Ⅱ類型は「日常生活の指導」に175時間含む。					

(8) 高 等 部（高等学校に準じた各教科等及び自立活動で編成する教育課程）

入 学 年 度		令和4年度入学～令和5年度入学														
類 型				Ⅰ						Ⅱ			Ⅲ			
学 年 教科・科目等		標準 単位	1年次 共 通	2		3		計		2	3	計	1	2	3	計
				文系	理系	文系	理系	文系	理系							
国 語	現代の国語	◎2	2					2	2			2	2	2	2	6
	言語文化	◎2	3					3	3			3	2	2	2	6
	論理国語	4		2	2		2	2	4	4	4	8				
	文学国語	4				3		3								
	古典探究	4		3	3	3	3	6	6							
地理歴史	地理総合	◎2		2	2			2	2		2	2			2	2
	歴史総合	◎2	2					2	2			2	2			2
	地理探究	3				6	3	6	3							
	日本史探究	3														
	世界史探究	3														
公 民	公 共	◎2		3	2			3	2	3		3		2		2
数 学	数 学Ⅰ	◎3	4					4	4	2		6	3	3	3	9
	数 学Ⅱ	4		3	3	2	2	5	5							
	数 学A	2	1	2	2			3	3	2	4	7				
	数 学B	2				3	3	3	3							
理 科	科学と人間生活	2								2	2	4		2	2	4
	物 理 基 礎	●2		2	4	2		6	6							
	化 学 基 礎	●2														
	生 物 基 礎	●2	2									2	2			2
	地 学 基 礎	●2														
	物 理	4				8		8								
	化 学	4														
	生 物 学	4														
	地 学	4														
保健体育	体 育	◎ 7～8	3	2	2	2	2	7	7	2	2	7	3	2	2	7
	保 健	◎2	1	1	1			2	2	1		2	1	1		2
芸 術	音 楽Ⅰ	●2		2	2			2	2	1	1	2		2		2
	美 術Ⅰ	●2														
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	4					4	4	2		6	2	1	2	5
	英語コミュニケーションⅡ	4		3	2	4	2	7	4							
	論理・表現Ⅰ	2		2	2	2	2	4	4		2	2				
家 庭	家 庭 基 礎	◎2	2					2	2		2	4		2	2	4
情 報	情 報Ⅰ	◎2	2					2	2	2	2	6	2		2	4
学校設定 教 科	産 業 社 会		1					1	1			1				
	産業社会と人間									6	6	12	6	6	6	18
小 計			27	27	27	27	27	81	81	27	27	81	25	25	25	75
自 立 活 動			1	1	1	1	1	3	3	1	1	3	2	2	2	6
総合的な探究の時間		◎ 3～6	1	1	1	1	1	3	3	1	1	3	2	2	2	6
合 計			29	29	29	29	29	87	87	29	29	87	29	29	29	87
ホ ー ム ル ー ム 活 動			35	35	35	35	35	105	105	35	35	105	35	35	35	105
備 考			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	0人	3人
		○Ⅰ・Ⅱ類型の1年次は一定の知識や技能を身に付けるための基礎学習をし、2年次から能力／適性に応じてⅠ類型、Ⅱ類型に分かれて履修する。														
		○Ⅰ類型に文系と理系を設け、希望に応じて履修する。														
		○Ⅲ類型は、3年間を通して同じ類型で学習を行う。														
		○理科の履修については、文系は2年次に生物基礎以外を1科目選択し、3年次は1、2年で選択していない基礎科目を選択する。理系は2年次に生物基礎以外の基礎科目を2科目選択し、3年次は基礎以外を2科目選択する。														
○Ⅰ類型では言語文化、古典研究、公共（文系のみ）、英語コミュニケーションⅡ（文系のみ）、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、英語コミュニケーションⅠ、論理・表現Ⅰについて、Ⅱ類型では言語文化、論理国語、公共、数学Ⅰ、数学A、科学と人間生活、英語コミュニケーションⅠについて、学習の定着を図るため、標準単位数から1～3単位増やして履修することとする。																
○Ⅰ類型の文系では、文学国語、論理国語において一部の内容項目を精選して取り上げて履修するため、標準単位数から1～2単位を減らして履修することとする。																
○Ⅲ類型では、現代の国語、言語文化、数学Ⅰ、科学と人間生活、英語コミュニケーションⅠ、家庭基礎について、学習の定着を図るため、標準単位数から2～6単位数増やして履修することとする。																
○生徒会活動を年間30時間程度設定する。																
○1単位時間は50分とする。																

(9) 高 等 部 (高等学校に準じた各教科等及び自立活動で編成する教育課程)

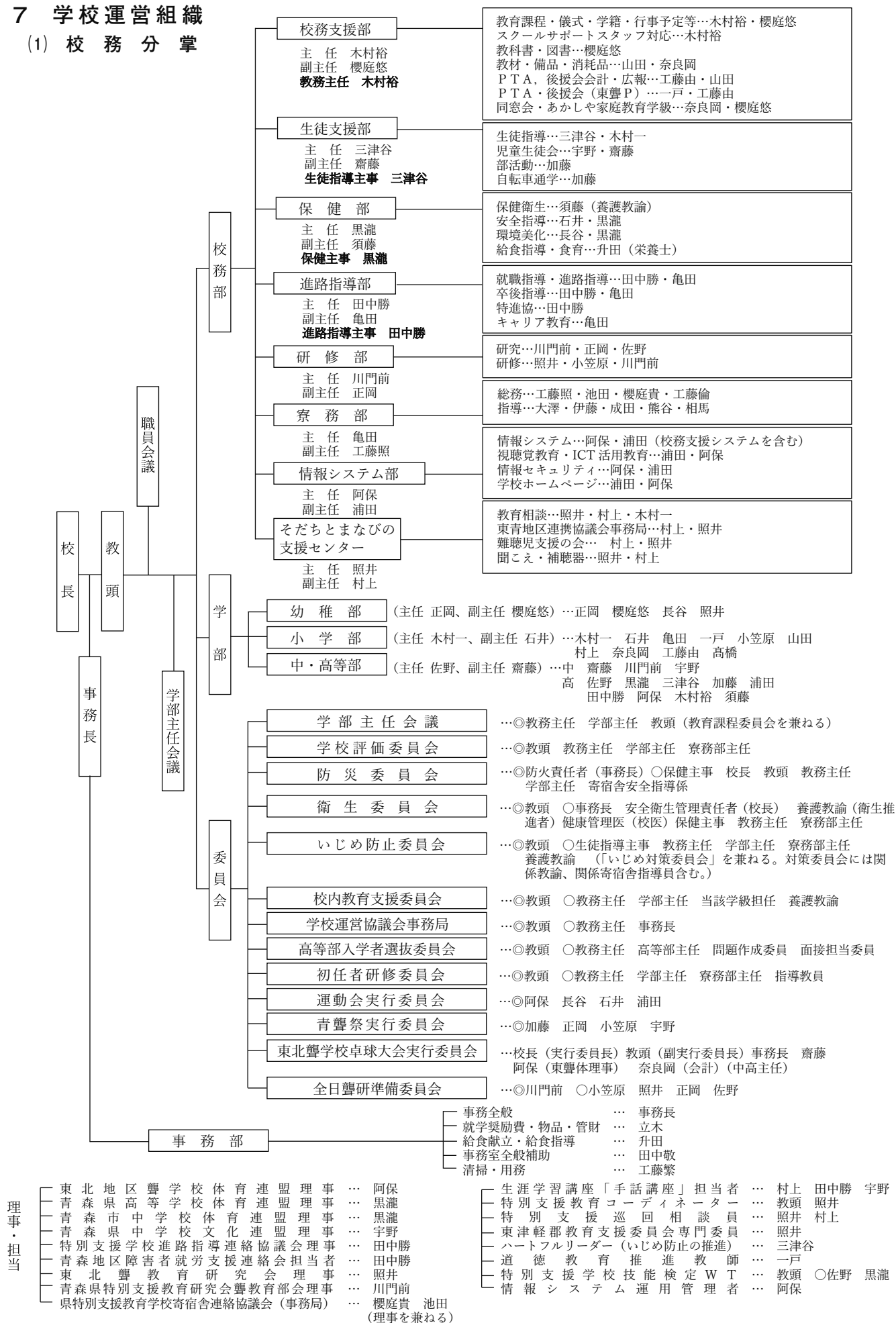
入 学 年 度		令和3年度入学									
類 型			I						II		
学 年 教科・科目等		1年次 共 通	2		3		計		2	3	計
			文系	理系	文系	理系	文系	理系			
国 語	国 語 総 合	5					5	5			5
	国 語 表 現		1		2		3		1	2	3
	現 代 文 B		3	3	2	2	5	5	4	2	6
	古 典 B		3	2	2	2	5	4			
地 理 歴 史	世 界 史 A				2	2	2	2		3	3
	日 本 史 A								}	3	3
	地 理 A										
	日 本 史 B		}	4	}	2	6	4			
	地 理 B										
公 民	現 代 社 会	3					3	3			3
数 学	数 学 I	4					4	4	3		7
	数 学 II		3	3	2	2	5	5			
	数 学 A	1	2	2			3	3	2	4	7
	数 学 B				3	3	3	3			
理 科	科学と人間生活										
	物 理 基 礎		}	2	}	2	7	7	}	3	9
	化 学 基 礎										
	生 物 基 礎	3									
	地 学 基 礎										
	物 理										
	化 学				}	4×2		8			
	生 物 学										
保 体	体 育	3	2	2	2	2	7	7	2	2	7
	保 健	1	1	1			2	2	1	1	3
芸 術	音 楽 I		}	2			2	2		}	2
	美 術 I										
外 国 語	コミュニケーション英語基礎										
	コミュニケーション英語I	4					4	4	2		6
	コミュニケーション英語II		2	2	4	4	6	6			
	英 語 表 現 I		2	2	2		4	2		2	2
家 庭	家 庭 基 礎	2					2	2	2		4
情 報	社 会 と 情 報				2	2	2	2		2	2
学 校 設 定 教 科	産 業 社 会	1					1	1			1
	産 業 社 会 と 人 間								4	4	8
小 計		27	27	27	27	27	81	81	27	27	81
自 立 活 動		1	1	1	1	1	3	3	1	1	3
総 合 的 な 探 究 の 時 間		1	1	1	1	1	3	3	1	1	3
合 計		29	29	29	29	29	87	87	29	29	87
ホ ー ム ル ー ム 活 動		35	35	35	35	35	105	105	35	35	105
備 考		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人
		○ I・II類型の1年次は一定の知識や技能を身に付けるための基礎学習をし、2年次から能力・適性に応じてI類型、II類型に分かれて履修する。 ○ I類型に文系と理系を設け、進学希望に応じて履修する。 ○ 理科の履修については、2年次では生物基礎以外を2科目選択し、3年次には別な科目を選択することとする。 ○ 生徒会活動を年間30時間程度設定する。 ○ 1単位時間は50分とする。									

(10) 高 等 部 (知的障害の各教科に替えて編成する教育課程)

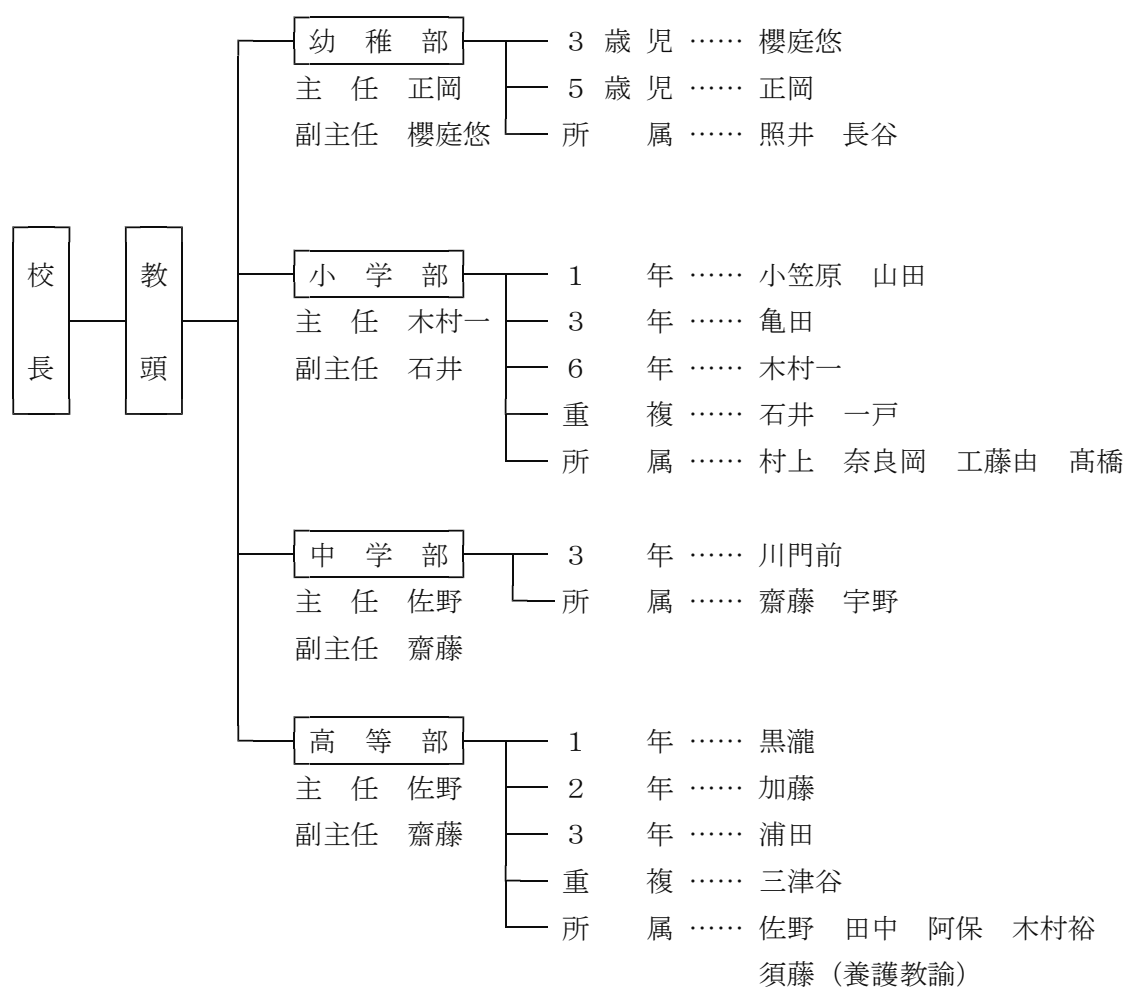
入 学 年 度		令和3年度入学～令和5年度入学					
類 型		I			II		
学 年		1	2	3	1	2	3
教科・科目等							
各 教 科	国 語	105	105	105	70*	70*	70*
	社 会	70	70	70	#*	#*	#*
	数 学	105	105	105	70*	70*	70*
	理 科	70	70	70	#*	#*	#*
	音 楽	35	35	35	#*	#*	#*
	美 術	35	35	35	#*	#*	#*
	美 術	105	70	70	#*	#*	#*
	職 業	210	210	210	*	*	*
	家 庭	70	105	105	#*	#*	#*
	外 国 語	35	35	35			
	情 報						
各教科を 合わせた 指 導	日常生活の指導				350	350	350
	生活単元学習				210	210	210
	作業学習				140	140	140
自 立 活 動		105	105	105	140*	140*	140*
総 合 的 な 探 究 の 時 間		35	35	35	35	35	35
小 計		980	980	980	735	735	735
特 別 な 教 科 道 徳		35	35	35	#*	#*	#*
ホ ー ム ル ー ム 活 動		35	35	35	35	35	35
合 計		1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050
備 考		0人	1人	0人	0人	0人	0人
		○知的障害特別支援学校における各教科等の履修等の規定を適用し、II類型は*を付した各教科の全部又は一部を合わせ、「日常生活の指導」「生活単元学習」「作業学習」で指導する。 ○II類型において、#を付した各教科等の一部を教科及び道徳科の一部を、自立活動に替えて指導する。 ○1単位時間は50分とする。 ○I類型は給食時間を、授業時数に含まない。II類型は給食時間を、「日常生活の指導」に175時間含む。 ○I類型は、生徒会活動を年間30時間程度設定する。					

7 学校運営組織

(1) 校務分掌



(2) 教育指導組織



8 年間行事予定表

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1 土	学年始休業	1 月		1 木		1 土		1 火		1 金	学校公開 【閉】
2 日		2 火	金曜日課 【閉】	2 金	【閉】	2 日	【開】	2 水		2 土	
3 月		3 水	憲法記念日	3 土		3 月		3 木		3 日	【開】
4 火		4 木	みどりの日	4 日	【開】	4 火	中職場体験学習-5	4 金		4 月	
5 水		5 金	こどもの日	5 月	現場実習-16	5 水		5 土		5 火	
6 木	【開】	6 土		6 火		6 木	手話講座②	6 日		6 水	
7 金	新任式・入学式・始業式 【閉】	7 日	【開】	7 水		7 金	幼たなばた会 【閉】漢字検定	7 月		7 木	手話講座⑤
8 土		8 月	◎②	8 木		8 土	東豊卓球(青森)-9	8 火		8 金	高体験入学 【閉】
9 日	【開】	9 火	幼かんげい会	9 金	【閉】	9 日	【開】	9 水		9 土	
10 月	中高対面式	10 水	児童生徒総会リハ 尿検査③	10 土		10 月		10 木		10 日	【開】
11 火		11 木	児童生徒総会	11 日	【開】	11 火	金曜日課	11 金	山の日	11 月	
12 水		12 金	【閉】	12 月		12 水		12 土		12 火	避難訓練②
13 木		13 土		13 火		13 木	手話講座③	13 日		13 水	
14 金	【閉】尿検査①	14 日	【開】	14 水		14 金	【閉】	14 月	閉庁日	14 木	手話講座⑥
15 土		15 月	内科検診 (小6修旅前健診を兼ねる)	15 木	幼おとまり会-16 3才遠足	15 土		15 火	閉庁日	15 金	【閉】
16 日	【開】	16 火		16 金	【閉】	16 日		16 水	閉庁日	16 土	
17 月		17 水		17 土	中体連-18	17 月	海の日 【開】	17 木		17 日	
18 火	全国学力・学習状況調査小6・中3 交通安全教室(幼小)	18 木		18 日	【開】	18 火	◎⑤	18 金		18 月	敬老の日 【開】家族レク
19 水	眼科検診	19 金	【閉】	19 月	中振休	19 水		19 土		19 火	
20 木	小入学を祝う会 幼4月誕生会	20 土		20 火	避難訓練①	20 木	大清掃 手話講座④	20 日		20 水	
21 金	全校参観日 【閉】PTA総会	21 日	【開】	21 水	小修学旅行-23	21 金	▲1学期終業式 【閉】	21 月		21 木	手話講座⑦
22 土		22 月	◎③	22 木	小宿泊学習	22 土		22 火		22 金	【閉】
23 日	【開】	23 火		23 金	【閉】	23 日		23 水		23 土	秋分の日
24 月	◎① 歯科検診	24 水		24 土		24 月		24 木		24 日	【開】
25 火		25 木		25 日	【開】	25 火		25 金		25 月	◎⑦
26 水	心電図検査(小1、高1)	26 金		26 月	◎④	26 水		26 土		26 火	
27 木	耳鼻科検診 尿検査②	27 土	■運動会 【閉】	27 火		27 木		27 日	【開】	27 水	
28 金	【閉】	28 日		28 水	中高期末考査	28 金		28 月	2学期始業式 ◎⑥	28 木	
29 土	昭和の日	29 月	振替休業日 【開】	29 木	手話学習会①	29 土		29 火		29 金	【閉】
30 日	【開】	30 火		30 金	全校参観日 【閉】	30 日		30 水		30 土	全聾陸上(埼玉)
		31 水				31 月		31 木	幼プール遊び 小プール学習		

- ▲ 午前授業(給食あり) 【開】 開舎日
■ 学校行事(給食なし) 【閉】 閉舎日
◎ 経費納入日10回

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1日	全聾陸上(埼玉) 【開】	1水		1金	小スケート教室 【閉】	1月	元日	1木	金曜日課	1金	【閉】
2月		2木	幼親子遠足 【閉】	2土		2火		2金	まめまき会 【閉】中入学説明会	2土	
3火		3金	文化の日 全聾卓球(名古屋)-5	3日	【開】	3水		3土		3日	【開】
4水		4土		4月		4木	仕事始め	4日	【開】	4月	
5木		5日	【開】	5火		5金	閉庁日	5月		5火	幼おわかれ会 小卒業を祝う会
6金	【閉】	6月		6水		6土		6火		6水	
7土	■青聾祭 【閉】	7火	中修学旅行-9	7木		7日		7水		7木	中高卒業生を送る会
8日		8水		8金	中参観日 【閉】	8月	成人の日	8木		8金	
9月	スポーツの日	9木		9土		9火		9金	小入学説明会 【閉】	9土	■卒業式 【閉】
10火	振替休業日 【開】	10金	漢字検定 【閉】	10日	【開】	10水		10土		10日	
11水	幼10月誕生会	11土		11月		11木		11日	建国記念の日	11月	振替休業日 【開】
12木	中修学旅行前検診	12日	【開】	12火		12金		12月	振替休業日 【開】	12火	
13金	【閉】	13月		13水	小なわとび教室	13土		13火		13水	
14土		14火		14木	幼クリスマス会	14日	【開】	14水	中高期末考査卒生	14木	
15日	開校記念日 【開】	15水	お店やさんごっこ①	15金	小参観日 【閉】	15月	3学期始業式	15木		15金	【閉】
16月		16木	お店屋さんごっこ②	16土		16火		16金	中参観日 【閉】	16土	
17火	幼お店見学	17金	中体験入学 【閉】	17日	【開】	17水		17土		17日	【開】
18水		18土		18月	◎⑩	18木		18日	【開】	18月	
19木		19日	【開】	19火		19金	【閉】	19月		19火	
20金	【閉】	20月	◎⑨	20水	小クリスマス会	20土		20火		20水	春分の日
21土		21火		21木	大清掃	21日	【開】	21水		21木	
22日	【開】	22水	月曜日課	22金	▲2学期終業式 【閉】	22月		22木	【閉】	22金	【閉】
23月	◎⑧	23木	勤労感謝の日	23土		23火		23金	天皇誕生日	23土	
24火		24金	【閉】	24日		24水		24土		24日	【開】
25水	技能検定	25土		25月		25木	避難訓練③	25日	【開】	25月	大清掃
26木		26日	【開】	26火		26金	漢字検定 【閉】	26月		26火	■修了式 【閉】
27金	【閉】	27月		27水	仕事納め	27土		27火	中高期末考査在生	27水	学年末休業
28土		28火	中高期末考査	28木	閉庁日	28日	【開】	28水	小参観日	28木	
29日	【開】	29水	11月誕生会	29金		29月		29木		29金	
30月		30木		30土		30火				30土	
31火				31日		31水				31日	

9 職員の状況

(1) 教職員数

性別 \ 職名	校長	教頭	教諭	養護教諭	臨時講師	非常勤講師	寄宿舍指導員	臨時寄宿舍指導員
男	1		8		1		3	1
女		1	13	1	2	1	3	2
計	1	1	21	1	3	1	6	3

事務長	事務主幹	主任栄養士	臨時事務職員	技能業務員	校医	薬剤師	計
1			1	1	2	1	20
		1		1	2		27
1		1	1	2	4	1	47

その他 非常勤寄宿舍指導員 3 名、宿日直代行員 5 名

(2) 教職員一覧

職名	氏名	担当教科・科目等	校務分掌
校長	大坂 充		
教頭	鈴木 朋絵		
教諭	齋藤 満	中・高社会 中技術家庭 高公共 高家庭基礎	中学部 生徒支援部
教諭	黒瀧 敏子	中保体 高体育 高保健 高家庭 産業 自立 総合 LHR	高等部1年担任 保健部主任（保健主事）
教諭	照井 智幸	教育相談 幼稚部における全領域	そだちとまなびの支援センター主任 研修部
教諭	村上 千香子	教育相談 小2遊び 小3国語 小3外国語活動	そだちとまなびの支援センター副 主任
教諭	木村 一子	国語 算数 社会 自立 道徳 総合 学活 教育相談	小学部主任 小学部6年担任 生徒支援部
教諭	亀田 新也	国語 算数 自立 社会 道徳 学活	寮務部主任 小学部3年担任 進路指導部
教諭	正岡 里絵	幼稚部における全領域	幼稚部主任 幼稚部5歳児担任 研修部
教諭	木村 裕司	高理科 中数学	高等部 校務支援部主任（教務主任）
教諭	阿保 孝志朗	自立 総合 中保体 高数学 高体育 高保健 高情報 高英語	高等部 情報システム部主任

職 名	氏 名	担当教科・科目等	校 務 分 掌
教 諭	佐 野 公 一	中・高理科 高数学 中美術	中・高等部主任 研修部
教 諭	田 中 勝 己	産業 世界史 高美術	高等部 進路指導部主任（進路指導主事）
教 諭	石 井 仁 恵	学活 生単 自立 日生	小学部副主任 小学部2年担任 保健部
教 諭	三津谷 星 子	中・高外国語 総合 L H R 自立 職業	高等部2年B担任 生徒支援部主任（生徒指導主事）
教 諭	加 藤 繭 美	高国語 自立 L H R 総合	高等部2年A担任 生徒指導部
教 諭	川門前 泉	小・中・高外国語 学活 自立 総合	中学部3年担任 研修部主任
教 諭	一 戸 知 子	国語 算数 自立 道德 総合 学活 生単	小学部4年担任 校務支援部
教 諭	小笠原 真由子	国語 算数 自立 道德 学活 音楽 体育	小学部1年担任 研修部副主任
教 諭	櫻 庭 悠 希	幼稚部における全領域	幼稚部3歳児担任 校務支援部副主任
教 諭	浦 田 夏 輝	中・高数学 産業 自立 総合 L H R	高等部3年担任 情報システム部
教 諭	山 田 舞	国語 算数 生活 音楽 体育	小学部1年担任 校務支援部
教 諭	宇 野 かりん	中・高国語 自立 高数学 中・高道德	中学部 生徒支援部
臨 時 師	奈良岡 守	小体育 算数 理科 社会 図工	小学部 校務支援部
臨 時 師	工 藤 由紀子	小中高音楽 図工 家庭 小2遊び 小体育	小学部 校務支援部
臨 時 師	長 谷 萌	幼稚部における全領域	幼稚部 保健部
養 護 教 諭	須 藤 楨 子		中高等部 保健部
	秋 元 敦 子	スクールサポートスタッフ	
主任寄宿舎 指導員	池 田 悟		男子棟担当 舎総務係 男子棟チーフ
主任寄宿舎 指導員	工 藤 照 之		男子棟担当 舎総務係チーフ 寮務部副主任
主任寄宿舎 指導員	櫻 庭 貴 子		女子棟担当 舎総務係
主任寄宿舎 指導員	伊 藤 吉 子		女子棟担当 舎指導係 女子棟チーフ

職 名	氏 名	担当教科・科目等	校 務 分 掌
主任寄宿舍 指導員	大 澤 哲 也		男子棟担当 舎指導係チーフ
寄 宿 舎 指導員	成 田 敬 子		女子棟担当 舎指導係
臨時寄宿舍 指導員	工 藤 倫 子		女子棟担当 舎総務係
臨時寄宿舍 指導員	熊 谷 和 磨		男子棟担当 舎指導係
臨時寄宿舍 指導員	相 馬 美 月		女子棟担当 舎指導係
事務長	工 藤 正 人		事務全般
臨時事務 職 員	立 木 良 朋		就学奨励費 物品 管財
主 任 栄養士	升 田 千佳子		給食献立 給食指導
技 能 業務員	田 中 敬 子		事務室全般補助
技 能 業務員	工 藤 繁 美		校舎内外維持管理
非常勤 講 師	高 橋 百合子		
	工 藤 幸 子	育児休業中	
校 医	鈴 木 秀 和		健康管理医 内科
校 医	三 戸 千賀子		眼科
校 医	後 藤 真 一		耳鼻科
校 医	佐々木 美 王		歯科
薬剤師	柴 田 久 喜		薬剤師

10 幼児児童生徒の状況

(1) 幼児児童生徒数・学級数

性別	学部 学年	幼 稚 部				小 学 部						中 学 部				高 等 部				合 計	
		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	普 通 科				
																	1	2	3		計
男	0	0	1	1	1	0	2	1	0	1	5	0	0	0	0	0	0	1	1	7	
女	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2	2	1	3	0	4	9	
計	1	0	1	2	2	1	2	1	0	1	7	0	0	2	2	1	3	1	5	16	
学級数	1	0	1	2	1	1	1	0	0	1	4	0	0	1	1	1	2	1	4	11	

(2) 出身市町村別幼児児童生徒数

性別	学部 学年	幼 稚 部				小 学 部						中 学 部				高 等 部				合 計	
		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	普 通 科				
																	1	2	3		計
青 森 市	0	0	1	1	2	1	1	1	0	1	6	0	0	2	2	0	0	0	0	9	
む つ 市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
弘 前 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
八 戸 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	
北津軽郡板柳町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
上北郡六戸町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
上北郡東北町	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
計	1	0	1	2	2	1	2	1	0	1	7	0	0	2	2	1	3	1	5	16	

(3) 通 学 方 法

	通 学 方 法			寄 宿 舎	計
	バ ス	自 家 用 車	徒 歩		
計	0	7	0	9	16

11 卒業生の進路状況

(1) 卒業生数累計と卒業生動向

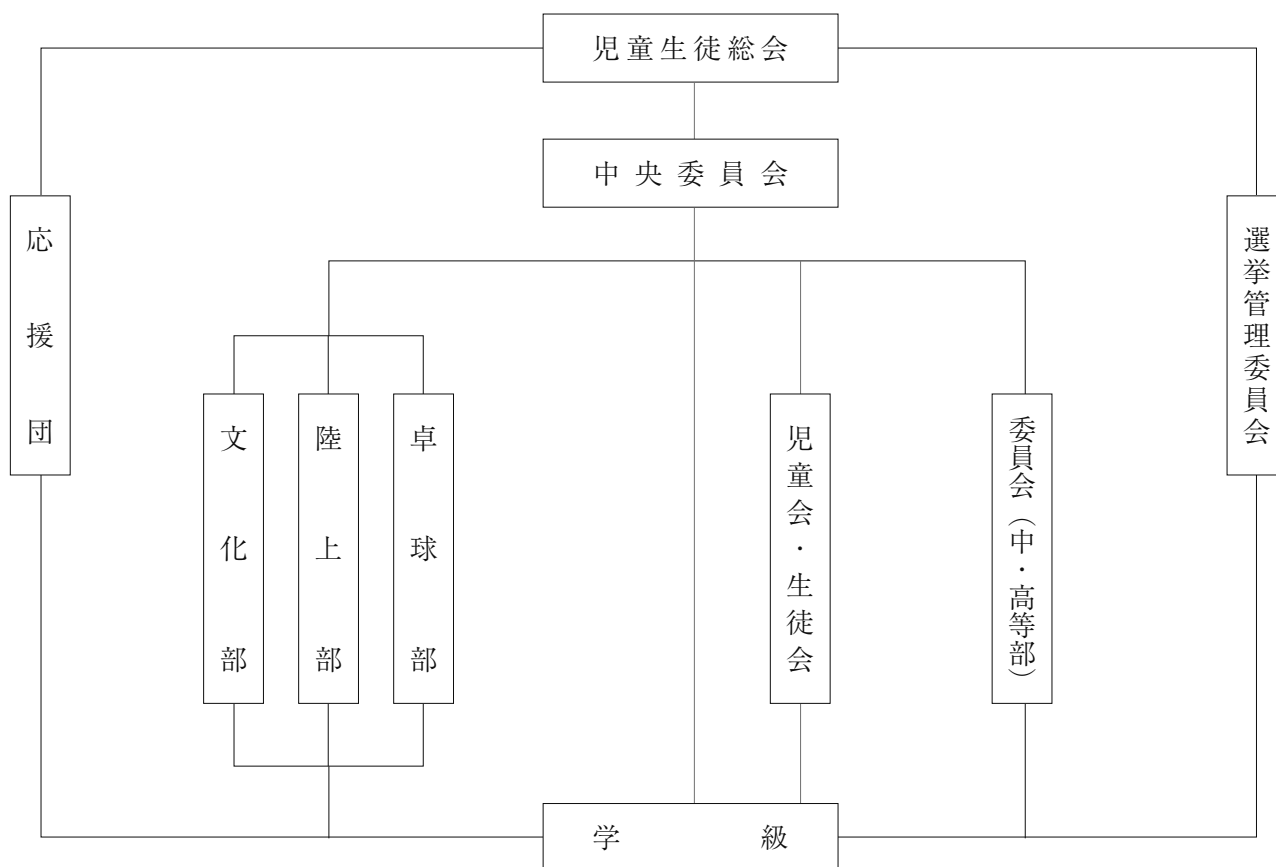
学 部	累 計			4 年度卒業生			令和 4 年度卒業生動向
	男	女	計	男	女	計	
幼	64	62	126	1	1	2	本校小学部へ 2 名入学
小	174	162	336	0	0	0	
中	172	160	332	0	0	0	
高	155	176	331	3	3	6	就職 2 名、各種学校 2 名、大学進学 2 名
計	565	560	1,125	4	4	8	

(2) 高等部卒業生の進路状況（平成24年度以降）

職種等 年 度		自動車等製造	電 子	縫 製	一 般 事 務	食 品 製 造	情報・サービス	訓 練 校	リハビリ施設	他校専攻科	販 売	そ の 他	計
平成24年度	男	1											1
	女							3					3
平成25年度	男	1											1
	女							1					1
平成26年度	男												
	女					1							1
平成27年度	男	1				1		1				2	5
	女						1					3	4
平成29年度	男											1	1
	女										1		1
平成30年度	男	1											1
	女		2			1	2						5
平成31年度	男	1										1	2
	女					1						1	2
令和 2 年度	男	1											1
	女												
令和 3 年度	男		1									2	3
	女												
令和 4 年度	男	1										2	3
	女	1										2	3
合 計	男	7	1			1		1				8	18
	女	1	2			3	3	4			1	6	20

12 児童生徒会組織及び部活動

(1) 児童生徒会運営組織（小学部4年以上の児童生徒をもって組織する。）



(2) 部活動（中学部・高等部）

部活動	卓球部
	陸上部
	文化部

13 寄 宿 舎 運 営

1 寮 務 部 目 標

- (1) 健康で明るい子供の育成を図る。
- (2) 社会性豊かな子どもの育成を図る。
- (3) 生活に自主性をもつ子どもの育成を図る。
- (4) 行事や行動に主体性を持って関わる子どもの育成を図る。

2 経 営 ・ 運 営 方 針

- (1) 健康で明るく楽しい集団生活を送ることができるよう支援する。
- (2) 互いに助け合い、思いやりのある関わりができるよう支援する。
- (3) 節度ある生活に心がけ、それぞれが成長できるよう支援する。
- (4) 寄宿舍行事やひまわり会活動に主体的に関わることができるよう支援する。

3 重 点 目 標

舎生が主体的に安心して楽しく笑顔溢れる寄宿舍生活を送れるよう環境を整え、舎生一人ひとりに応じた力を習得できるよう適切な指導・支援を行い、社会生活の中で心豊かにたくましく生きるための力を育成する。

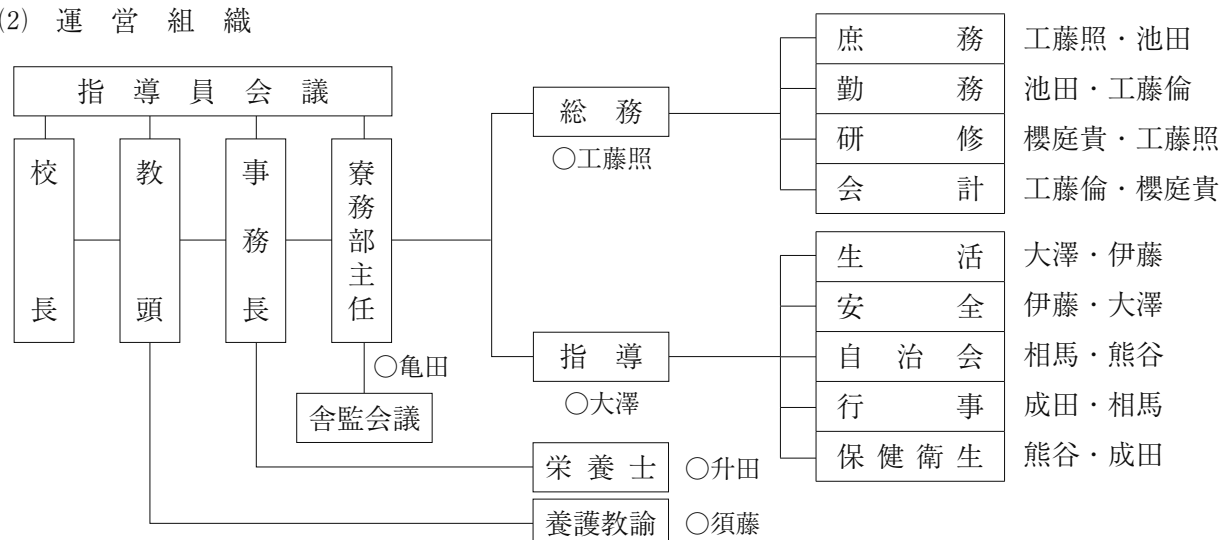
【具体的な取り組み】

- 1 将来の自立に向け、舎生個々の実態に応じた基本的生活習慣を確立できるよう、手順や方法を共通化するなどして、日常生活の中で丁寧な指導する。
- 2 集団生活に慣れ、協調性や思いやりの心と豊かな心を育むことができるような言葉かけを工夫したり、場面を設定したりする。
- 3 子どもたちの声に耳を傾け、意見を尊重しながら、自治会活動や週番活動等、主体性をもって取り組むことができるよう支援する。

4 運 営 及 び 組 織

- (1) 寄宿舍の運営には校長、教頭、事務長、寮務部主任、舎監、寄宿舍指導員、養護教諭、栄養士があたる。

- (2) 運 営 組 織



- (3) 舎監

宿直 勤務時間 18:00～22:00 (4時間) ※日曜・祝日は19:00～勤務

宿明 勤務時間 6:00～7:40 (1時間40分)

- (4) 非常勤寄宿舍指導員

宿直 勤務時間 18:30～22:00 (3時間30分)

宿明 勤務時間 5:15～8:00 (2時間45分)

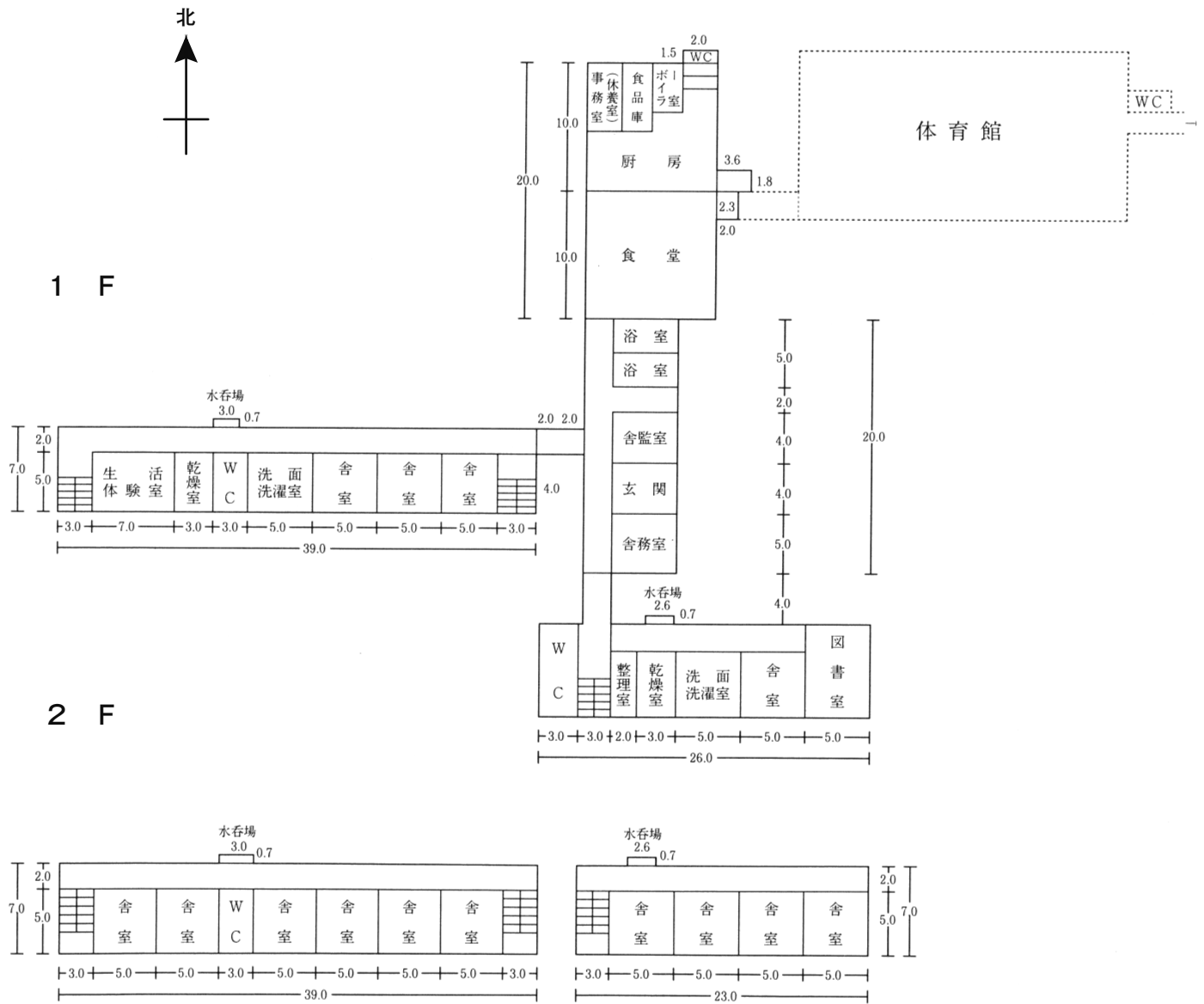
5 舎 生 一 覧

性別	学部 学年	幼 稚 部				小 学 部						中 学 部				高 等 部				合	
		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	普 通 科				計
																	1	2	3	計	
男	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	4	
女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	0	4	5	
計	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	1	3	1	5	9	

6 寄宿舎の主な年間行事

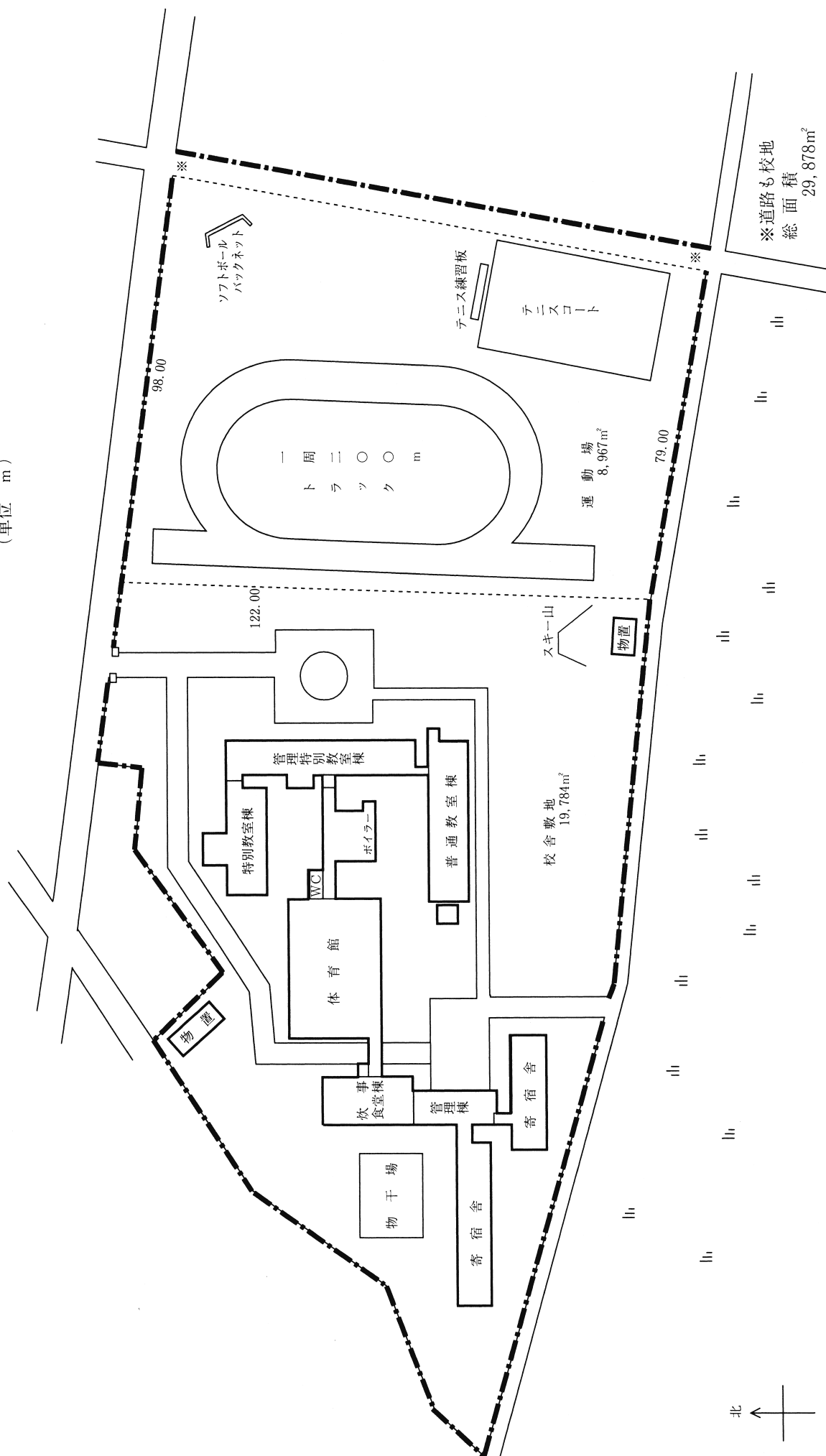
学期	月	生 活	安 全	自 治 会	行 事	保 健
1 学 期	4月	・オリエンテーション	・近隣把握 ・防災指導 ・帰省帰舎指導		・歓迎会	・分担区域清掃 指導月間 ・平熱調べ
	5月		・避難訓練(火災) ・帰省帰舎指導	・花植え ・誕生日会		
	6月			・誕生日会	・ホテル観察会	
	7月	・オリエンテーション			・七夕	・舎室清掃期間 ・下足箱清掃 ・冷蔵庫清掃 ・床拭き清掃
2 学 期	8月		・避難訓練(不審者)	・花壇草取り	・夕涼み会	・舎室清掃期間
	9月			・交流活動 ・誕生日会	・十五夜	
	10月					
	11月	・ビューティーセミナー	・避難訓練(地震)		・余暇活動	
	12月	・オリエンテーション			・クリスマス会	・舎室清掃期間 ・下足箱清掃 ・洗濯機清掃
3 学 期	1月			・自治会役員選挙		・舎室清掃期間
	2月				・節分	・食堂清掃
	3月				・卒業を祝う会 ・ひな祭り	・舎室清掃期間
そ の 他				・ひまわり会集会 ・図書紹介(役員)		・嘔吐物処理パッ ク確認 ・加湿器・扇風機・ 蚊取り器使用説明、 片付け

寄 宿 舍 平 面 图



校舎配置図

(単位 m)



校章について



制定は昭和43年3月、考案者は吉川 宏^{よし かわ ひろし}氏、二唐 泰子^{に からきょうこ}氏（当時、本校教諭）です。

デザインの基礎になったのは、青森トドマツです。

青森トドマツは、東北地方の高山にだけあり、厳しい風雪に耐えながら、常に緑のとがった葉をつけ、枝を大きくはって、まっすぐ大空に伸びようと努力している樹木です。

丸は、みんな仲良く、お互いに助け合い、明るくのびのびと、まじめに、勉学や日常生活に励むことを意味しています。

三方への広がり、校訓（誠・和・朗）を表しています。

Aは青森、DはDeaf（ろう＝耳の不自由な人）の頭文字を表しています。

校歌について

制定は昭和47年1月、作詞者は横濱正大氏（当時、青森県立青森商業高等学校長）です。

作曲者は本間雅夫氏（当時、宮城教育大学教授）で、以前に日本聾話学校で教鞭をとったことがあり、郷里のためにもと、喜んで引き受けて下さいました。

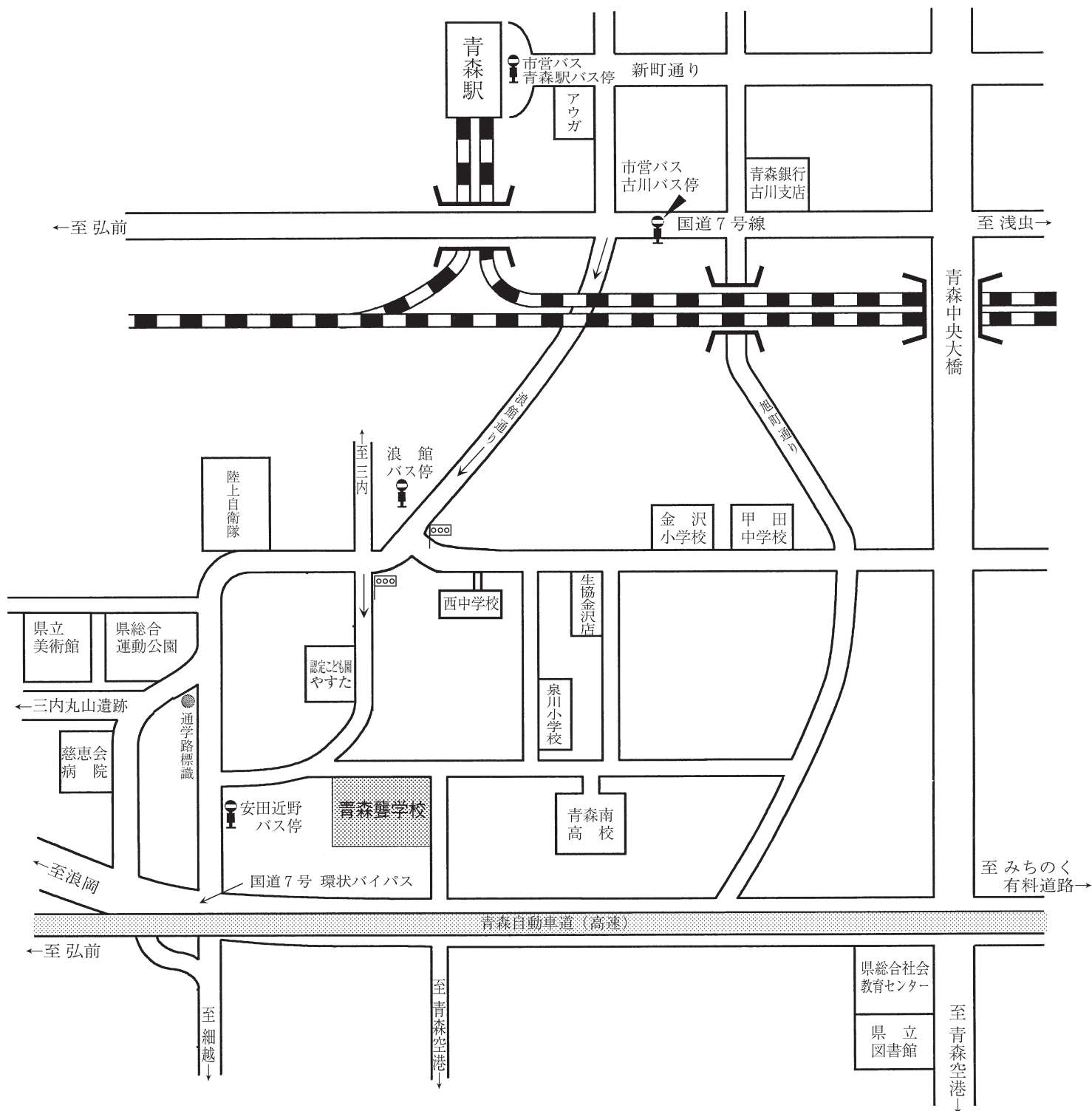
県立青森聾学校案内図

〒038-0021

青森市大字安田字稲森125の1

TEL 017-766-1834

FAX 017-766-1834



交通機関・所要時間

(1) 市営バス「慈恵会病院」「細越」行

- ① 青森駅 — バス 22分 —> 安田近野 — 徒歩 6分 —> 学校
- ② 青森駅 — 徒歩 7分 —> 古川 — バス 12分 —> 安田近野 — 徒歩 6分 —> 学校

(2) タクシー 青森駅 — 15分 —> 学校